

第2回 緑の基本計画改定委員会 議事概要

日時：令和2年6月22日（月）10:00～12:00

場所：TeamsによるWeb会議

議事次第

1. 開会
2. 環境推進部長挨拶
3. 委員長副委員長選任
4. 議 事
(1) 第1回委員会の意見概要と計画の構成案について
(2) 計画策定の趣旨、緑の役割について
(3) 熊本市の緑の現状について
(4) 上位・関連計画と施策の取り組み、及び施策の方向性について
(5) アンケート調査について
(6) その他 質疑応答



配付資料

- 会議次第 ■ 委員名簿 ■ 熊本市緑の基本計画改定委員会運営要綱
- 「熊本市緑の基本計画」の改定について
- 資料1：第1回委員会の意見概要と計画の構成案について
- 資料2：計画策定の趣旨、緑の役割
- 資料3：熊本市の緑の現状について
- 資料4：上位・関連計画と施策の取り組み、及び施策の方向性について
- 資料5：アンケート調査について

委員一覧

	氏 名	所 属（役職）	備 考
1	内野 明德	熊本大学名誉教授、熊本市環境審議会会長、 熊本市生物多様性推進会議委員長	
2	田中 尚人	熊本大学熊本創生推進機構准教授	
3	柳井 重人	千葉大学大学院園芸学研究科准教授	
4	蓑茂 壽太郎	東京農業大学名誉教授、熊本県立大学客員教授、 熊本市都市政策研究所所長	
5	伊東 麗子	日本樹木医会熊本県支部	
6	岩佐 弘子	熊本市緑の少年団連盟会長、熊本市地球温暖化防止活動 推進員	
7	大川 洋次郎	熊本市公園愛護会連合会会長	
8	澤 克彦	一般社団法人九州環境地域づくり代表理事九州環境 パートナーシップオフィス業務責任者	
9	河上 強	熊本市学校環境緑化コンクール審査委員	
10	福西 江玲奈	市民公募委員	

発言者	内容
1. 開会	
市（吉田課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度1月に緑の基本計画改定委員会を設置したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、第1回はやむを得ず書面開催となり、一方通行の会議となったことをお詫び申し上げます。また、そのような中、多数のご意見をいただきありがたかった。 ・委員の皆様が集まるのは、今回が初めてとなる。本来ならば、実際にお集まりいただき会議形式で行うが、依然として新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今回はWeb会議とさせていただきます。ご協力に感謝する。制限のある中での会議となり、不慣れな面もあると思うが、よろしく願います。 ・次に、開催にあたり、環境局環境推進部の本田部長からご挨拶申し上げます。
2. 環境推進部長挨拶	
環境局環境推進部（本田）	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はお忙しい中、「熊本市緑の基本計画改定委員会」に参加いただき大変ありがたい。 ・緑の基本計画は平成17年3月に作成されたが、二度にわたる近隣自治体との合併や政令市への移行、熊本地震の発生があり、熊本市総合計画を始めとする各上位計画や関連計画の改訂等が行われている。 ・関係法令の改定もあり熊本市を取り巻く環境は大きく変化していることから、今年度、計画の改訂を行うこととした。 ・忌憚のないご意見やご指摘を頂き、今回の改訂が実り多きものとなるよう願っている。よろしく願います。
3. 委員長副委員長選任	
市（吉田課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、熊本市緑の基本計画改定委員会運営要綱の第4条に基づき、委員の互選により委員長を選任していただく。委員の方、ご意見を願います。 ・特に意見がないようであれば、事務局案として内野委員を選任させていただきたい。 ・異議がないようであれば、内野委員に委員長に務めていただく。 ・それでは、内野委員には副委員長をご指名させていただきたい。
内野委員長	副委員長には熊本大学の田中先生にお願いしたいと思う。よろしく願います。
一同	異議なし。
内野委員長	議事次第にしたがって議事を進めさせていただく。各項目について、事務局より説明をお願いします。
4. 議事（1）第1回委員会の意見概要と計画の構成案について	
<p>≫事務局（東園）より、資料1「第1回委員会の意見概要と計画の構成案について」を説明</p>	
内野委員長	意見や質問はないか。
田中副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の緑の基本計画の策定後、社会の変化が多くあった。 ・今回、コロナでさらに緑の基本計画が大事になると感じている。ステイホーム、ソーシャルディスタンスの観点から、熊本市の魅力として緑の癒しの空間を謳っていただけらいいと思う。 ・アフターコロナへの対応が必要になってくる。新しい生活様式にも対応していただけらいいと思う。
養茂委員	計画策定の趣旨について、現計画の見直しは毎年どのようにチェックしてきたのか。
事務局（東園）	毎年、PDCAは実際出来ていない部分があった。今回の改定にあたり、反省点として

	捉えていきたい。
内野委員長	・評価が大事なのでよろしくお願ひしたい。
蓑茂委員	・市民意識の調査はアンケートのみなのか。その他の方法はないのだろうか。ネット社会なので、アンケートにプラスして別の手法も考えてはどうか。
事務局（東園）	・現段階ではアンケートのみを検討していたが、ネットを使った意見聴取についても検討したい。
内野委員長	・資料1の構成案と資料3を比較すると、部分的にしか記載されていない箇所もある。まだ、整合性はないということか。
事務局（東園）	・資料3は、基本計画の最終的な資料ではなく、計画を定めるための委員会用に抜粋したものであるため、すべての項目は入っていない。
4. 議事（2）計画策定の趣旨、緑の役割について	
≫事務局（東園）より、資料2「計画策定の趣旨、緑の役割」を説明	
内野委員長	・意見や質問はないか。
柳井委員	・P4～5について、熊本のいいところは歴史や文化であると思うが、そういったキーワードが抜けているのではないか。歴史や文化はその都市にとっての個性であり、熊本は特に歴史も長いから、歴史文化の継承と緑地をどのように考えるのかは重要である。 ・地すべりは都市の安全性に該当しないのか。 ・全体的な書きぶりとして、観光賑わいやいきがいコミュニティなどの言葉を使用することで、緑や自然に興味がある人だけでなく、より幅広い人が緑の基本計画に興味を持つようになるのではないか。
事務局（東園）	・第3章で熊本市独自の歴史について触れたいと考えている。構成について再度検討したい。 ・土砂災害の防止については、地下水のかん養や洪水・地すべりの防止で項目立てしている。 ・生きがいコミュニティの視点は、緑の役割として必要だと思う。追加を検討したい。
福西委員	・本来であれば自然はバリアフリーと共存しにくい。足の悪い人でも、街中で楽しめるようなスポットを作るなど、誰もが楽しめるようにしてはどうか。
内野委員長	・公園づくりにも大いに関係する内容になる。
蓑茂委員	・もう少し骨太の方針を策定の趣旨にに入れて頂きたい。緑の基本計画がどのような経緯で作成されたのか踏まえていない。計画行政をしっかりやらないといけない。カウンターパート、官民連携が大切。今は公園を増やすよりも政策実現の手段を考えることが大切である。平成17年の頃とは大きく違う。熊本らしさ、地震の経験を踏まえてはどうか。 ・熊本市ならではの緑の基本計画を作るといふ、少なくともマネジメントの言葉は必要である。
内野委員長	・非常に根本的な問題である。よく練っていかないといけない。
伊東委員	・柳井先生も指摘していたが、土砂災害も大事であるが、都市の安全性のところは薄いと感じる。都市の緑化なので、洪水調整、内水面も入れてはどうか。 ・地震の話も出たが、公園は防災教育に役立つ場所であるので、公園の話も組み込むことで市民に響くのではないだろうか。
田中副委員	・資料1で示されている項目を目次に反映する必要がある。大きく変更することで市民

	にも印象付けできるのではないか。
澤委員	<ul style="list-style-type: none"> SDGs について打ちだしてはどうか。熊本市は SDGs 未来都市に選定され注目度が高いが、SDGs の文言がないのは違和感がある。温暖化や生物多様性に加えて、さらに SDGs の文言を入れることで統一感や方向性を打ち出せるのではないだろうか。
市（吉田課長）	<ul style="list-style-type: none"> 多くのキーワードを頂いた。今後、骨子を作るにあたって骨太になるように基本理念等に反映していきたい。
4. 議事（3）熊本市の緑の現状について	
<p>≫事務局（東園）より、資料3「熊本市の緑の現状について」を説明</p>	
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> 意見や質問はないか。
河上委員	<ul style="list-style-type: none"> 学校の緑化活動は熊本市の「森の都」の観点から自画自賛している。 P13（2）地域の拠点となる学校の緑を守りとあるが、地震を経験したことから学校の考え方が変わってきた。「学校の緑を守る」という表現が気になる。守るという表現ではなく、人材育成などもっと積極的な姿勢を示して欲しい。 緑化コンクールの審査をするときに、これまでなかった壁面緑化の考え方も進んでいる。これを測る根拠として緑被率の求め方は、学校の緑被率は、屋上緑化、壁面緑化等の地域の特性も考慮できないか。街なかの緑化について数値で示せると思う。 緑の多様性、効用については、市民として当たり前と感じているが、もっと強く訴えることが大切と思う。学校現場だけでなく、市民に浸透するしくみが大切である。
岩佐委員	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の働き方改革、コロナ禍で、学校緑化活動の進め方については、教育委員会と相談して進める必要がある。 地下水、河川について多様な問題がでてきているが、市役所の課との連携がどうなるのか気になる。
福西委員	<ul style="list-style-type: none"> 学校緑化は、楽しんでいる子供たちが多いと思うが、先生が夏休みに水やりをしていると聞いている。先生の負担を減らすためにも毎日水やりをしなくていいような方法を、市から学校に伝えてほしい。 コロナで緑が気になる人が増えている。熊本の都市緑化フェアとからめて進めてはどうだろうか。個人の庭の緑化コンテストがあると参加者が増えるのではないか。
柳井委員	<ul style="list-style-type: none"> 緑の現状については、何のために把握するのか。評価、課題の抽出が計画、方針につながっていくものだと思う。 P10 の意識の高揚の取り組みについて記載しているが、当たりの視点である。上手くいっているのかいっていないのかを論理的に評価してはどうか。課題は一般論であり、さらに進めていくために何が課題かを評価する必要がある。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> 緑の基本計画は今後の政策展開の道具になる。そのためには、エビデンスが重要であり、現況の認識が重要である。 例えば、公園の整備、街路樹の管理にお金をどう使ってきたのか分からないと、これからの10年間どうするかということが出来ない。 緑のあり方と、社会的な位置づけがどのようになっているかもっと掘り下げることが必要である。 また、緑の強みは風致地区の指定が大前提であることを記載してほしい。そういった分析が社会性を持った計画をつくる。
伊東委員	<ul style="list-style-type: none"> P6 の2-3 都市公園の現状で、長期未整備都市計画公園の見直しに令和2年4月1日現在で2公園の都市計画変更を実施していると説明があるがどういうことか。

事務局（東園）	<ul style="list-style-type: none"> 確認して改めて報告する。 <p>（後日回答）長期未整備都市計画公園の見直しに伴い2公園において、令和2年4月1日に、都市計画区域を外している。本文中の都市計画変更を実施しているというのは、都市計画変更の手続きとして上記の内容で告示まで行ったということである。</p>
田中副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今までは緑の量を問われていたが、これからは緑の質の評価が求められている。 質の評価は難しく、人によって評価が異なるので、評価指標を改めてつくる必要がある。学校のアクティブラーニングのように満足度をあげる方法はないのか。適切どころに適切に緑があることを市民と一緒に評価できる対話型の評価システムをこれから作る予定などはあるだろうか。
事務局（東園）	<ul style="list-style-type: none"> 申し上げられた通り、これから緑は量だけでなく質が大切である。 市民と対話しながらよりよいものを作り上げる必要があるので、今後対話形式をどのように行うか検討したい。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> これからの市政に重要になってくる。手段の一つはアンケートになるが、他にも手段はあると思う。
田中副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市でも取り組まれているようだが、街路樹については市民とパートナーシップを結んで、一緒に評価をしていく緑のサポーターがある。その方々に政策評価をしてもらうようなシステムを導入するのはどうだろうか。
大川委員	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市内には公園が1100近くあり、公園愛護会があるのはそのうち600程度である。 緑化フェアの委員をしているが、緑が少ない公園もある。桜の植樹等をして、緑の多い公園にしたい。 街路樹は落葉樹が多いが、土木センターにお願いして伐採、剪定をしてもらっている。「森の都・熊本」を大切にしたいと思う。どの路線、どの地域に多く緑を入れるならいいかを考える必要があるのではないか。 緑化フェアでは、熊本城や山など上から見ると緑は多いが、計画について、もう少し緑を増やした方がいいと思っている。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> 記載されているデータについて意見はないだろうか。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> 裸地が増えているという記載があるが、耕作放棄地になっているということか。 公園に対する相対的な評価は下がっている。緑の基本計画のなかでストックマネジメントが導けるデータ整理が必要である。
事務局（東園）	<ul style="list-style-type: none"> 裸地は、熊本地震の影響で住宅が倒壊し、その住宅が撤去され裸地が増えている箇所がある。
4. 議事（4）上位・関連計画と施策の取り組み、及び施策の方向性について	
<p>≫事務局（東園）より、資料4「上位・関連計画と施策の取り組み、及び施策の方向性について」を説明</p>	
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> 意見や質問はないか。
福西委員	<ul style="list-style-type: none"> P10の新規（緑の「見せ方」「演出」を考慮した景観まちづくりの進展）は、どこの課が担当するのか。
事務局（東園）	<ul style="list-style-type: none"> 新規（緑の「見せ方」「演出」を考慮した景観まちづくりの進展）は、都市整備景観課が担当課である。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市は政令市になった。施策を展開していく上で国の制度を十分に活用できているのか。熊本市は積極的に活用できていないのではないかと心配している。 政令市としての独自の政策があるのかが重要になると思うので、他都市の取り組みに

	についても学んでほしい。いくつか先駆的事例を作ってほしい。
4. 議事（5）アンケート調査について	
»事務局（大石）より、資料5「アンケート調査について」を説明	
内野委員長	・アンケートの項目について追加したい項目や必要ない項目など、気づく点はないだろうか。
伊東委員	・P4の2-5、P6の4-2については、複数回答がいいのではないかな。
事務局（東園）	・回答をひとつに絞る必要がないかもしれない。複数でいいのか検討する。
内野委員長	・確かにひとつに答えてもらう必要はないが、全部に○をつけることもできるので、一度検討いただきたい。
柳井委員	・P22から市民団体のアンケートがあるが、ほとんどが市民と同じ質問である。 ・市民団体の活動内容、活動頻度、資金、物資調達の方法や、団体の自己評価、必要な支援等、活動の実態に関する質問に特化させたほうがいい。 ・市民団体の活動の支援やパートナーシップ、広げていくことに対して有用な成果が得られないのではないかな。
福西委員	・SDGs、グリーンインフラなど、市民は言葉の意味がわからない人が多いと思う。一般の人にこういった用語がどの程度浸透しているのかをアンケートで聞くことで、計画の書きぶりの参考にすることができるのではないかな。 ・熊本市庁舎の建て替えがコロナの影響で延期になっているが、歴史と自然との共生を考慮する方法を自由回答でアンケートに組み込んでみることで、庁舎の建て替えの参考にできないだろうか。
田中副委員長	・これから熊本市は、パートナーシップづくり、ファンづくりが必要となってくる。 ・全てを行政がやる時代ではなくなっているので、アンケートだけでなく、インタビューやワークショップによる顔が見える関係づくりが大事になってくる。アンケート以外の方法でも合意形成をしてはどうだろうか。
内野委員長	・公園の維持管理の質問があるが、街路樹についての質問がないので街路樹の維持管理についても聞いて欲しい。
澤委員	・緑の基本計画は上から下に投げかけるようなイメージがあるが、まちづくりの計画として課題があるなかに緑の課題を整理するような、横展開の考え方がほしい。 ・ステークホルダの意見を聞く場として、維持管理、保全する市民団体、利活用する企業の声も必要になってくる。
4. 議事（6）その他 質疑応答	
内野委員長	・全体を通して、ご質問ご意見等ないだろうか。 ・質問が無いようなので、本日はこれで終了とする。
内野委員長	・これで、予定していた議事がすべて終了となる。長時間にわたるご審議感謝する。これで議事を終わりたいと思う。事務局にお返りする。
市（吉田課長）	・以上ですべての議事を終了となる。これをもって「第2回 熊本市緑の基本計画改定委員会」を閉会する。 ・今回頂いた意見等について、資料に反映させていただきよう検討する。 ・次回第3回の日程は8月24～28日の週で予定している。事前に調整、よろしく願います。また、次回はWeb会議ではなく実際に集まって実施したいと思っている。よろしく願います。